



80歳以上の方の
ほぼ100%が発病!?

メスを入れるその前に、 白内障を改善でききる秘策!

手軽になったその裏で 白内障手術に潜むリスク…

「視力が落ちた、色の区別がつきにくい」

「視界がかすむ、ぼやける」

「日差しや夜の照明がまぶしく感じる」

「ものが二重・三重に見える」

もしこんな症状が現れたら、それは白内障かもしれません。

かつて、日本での失明原因のトップだった白内障は、目の内部にある水晶体が老化などの原因で濁る病気です。

白内障により水晶体が白く濁ってくると、光が乱反射するため、網膜に光が届かなくなり、前述のような症状が現れます。

現在、白内障に悩む患者さんは、50歳代の約40%、60歳代の約70%、70歳代の90%、80歳代ではほぼすべての人が白内障になると言われています。一度濁った水晶体は元の透明に戻

すことができず、進行した白内障の一般的治療法として普及しているのが外科手術です。その方法としては、

角膜の表面を切開して、吸引管で濁った水晶体を粉碎吸引し、代わりに人工の眼内レンズを挿入します。

手術時間は20分程度と短く、日帰りも可能ですが、手術にともなうリスクは決して小さいものではありません。

術後に、眼内レンズのズレが起きたり、ゴロゴロとした違和感などを感じている人や白内障が再発する人もいます。

手術の合併症によっては重篤な視力障害が起こることもあるように、手術を簡単に考えず、信頼のおける眼科医とよく相談のうえ、決める必要があります。

白内障の手術後に潜むリスクとは？

- ①人工の眼内レンズはピント調節が利かないため、**老眼が進む**ことがあります。遠近両用の多焦点レンズもありますが、保険適用外で**高額なリスク**があります。
- ②多焦点レンズは、**視野の下部が歪んで見える**という欠点があるため、階段の上り下りには注意が必要です。
- ③硝子体のなかにある異物(ゴミ)が見えるようになることで、視野のなかにいつも虫のような黒い点が映り込む、**飛蚊症の症状**が現れることもあります。
- ④手術後に最も多いのが、水晶体後のうが術後に濁ってくる、**後発白内障**です。この場合、再度レーザーを用いた治療が必要になります。
- ⑤手術後の合併症として、**角膜浮腫や虹彩炎、眼圧上昇**などを起こすことがあります。重篤な合併症としては、**細菌感染による眼内炎**があり、適切な処置がない場合、失明することがあります。